

## 週日の説教

金 大烈 神父 2009年8月13日(木)

### 《7回の70倍まで、つまり、いつも赦しなさい》

私は数字が苦手ですが、今日の福音(マタイ 18・21～19・1)には、数字が出ていますので、皆様と一緒に計算してみたいと思います

タラントンというお金の単位が出てきましたね。王様にいくら借金を持っていたと書いてありますか？ 一万タラントンですね。1タラントンは、6,000デナリオンです。1デナリオンは、ふつうの人が一日働いてもらうくらいの金額です。仮に、一日働いてもらうお金(1デナリオン)を5,000円としましょう。すると、1タラントンはいくらになりますか？ 1タラントンは6,000デナリオン。1デナリオンは5,000円。だから、1タラントンは3,000万円ですよ。そして、1万タラントンは3,000億円になります。

ということは、この王様というのは神様を意味しますが、神様に借金を持っている私たちは、どうしても返すことができないことになります。この話でイエス様は、いくら頑張っても神様に借りたお金、いろいろな恵み、を返すことは不可能であることをおっしゃっているのです。

では、1万タラントンの借金をして、帳消しにしてもらったその人は、友達にいくらお金を貸してましたか？ 100デナリオンですね。100デナリオンはいくらですか？ 50万円ですね。50万円を借りた友達に「返せ、返せ」と言い、「少し待ってくれ」と頼む友達を返済するまで牢に入れたわけです。友達を牢に入れた『不届きな者』と言われているのは、人間のことです。私達のことです。神様から返せないくらいの恵みをいただき、赦しをいただきながら、もっとずっと小さい何でもないようなことを赦せない、そして、人にいつも厳しくしてしまうのが私たち全ての人の心ではないでしょうか。

今日の福音の意味は簡単です。弟子達が、「誰かが私たちに罪を犯したら、7回赦せば十分でしょうか。」と言います。するとイエス様は、「7回どころか7の70倍も赦しなさい。」とおっしゃいます。7という数字は、イスラエル人にとっては完璧な数字です。一番大きい数字です。ですから、「7回赦す」と言えば、自分の限られている力の中では、一番赦すことです。だから弟子は、褒められると思いつつ、そのように聞いたのです。ところが、褒められのではなく、「7回どころか7の70倍まで赦しなさい。」と言われます。それは、イエス様が「死ぬ時までいつも赦す練習をしなさい。」とおっしゃっていることになります。

皆様、人の罪についてどのくらい寛大ですか。自分に損になったと思えば、責めようとするのが私たちの自然な反応ではないでしょうか。しかし、イエス様は「7の70倍まで、つまりいつも赦しなさい。」とおっしゃいました。そして最後に、「あなた方が赦さなければ、天におられる神様も絶対あなた方のことを赦さない。」とおっしゃいました。

私たちが赦すのには、二つの理由があります。

一つは、拒むことのできない神様の命令です。「あなたが赦さなければ私も赦さない」というはっきりした命令です。ですから、仕方なく私たちは赦さなければならないのです。掟として受け入れなければならないのです。

二つ目は、「自分が生きるために赦さなければならない」のです。憎しみで人を赦せない心を持っている人は、いつも責められます。両足を伸ばして眠ることができません。相手の顔を見たら、名前さえ耳にしたら、消化不良になります。結局、赦せない相手ではなく、自分が死んで行きます。ですからイエス様が、「赦しなさい、赦さなければならない。」とはっきりおっしゃっているのです。

皆様、祈ってください。「私は頑張ってもあの人を赦すことができません。」という思いになること

があるかもしれません。その時は、「赦す心をお願いします」と強く願ってください。ある霊性神学者は、「赦すことは、ある意味で奇跡です」と言います。自分の意志ではなく、神様の行いだから奇跡なのです。自分の心の働きを変化させる霊の導きに従うことで、何とか赦すことができるのではないかと、言っているのです。

皆様、全てのことには練習が必要ですが、赦すことにも本当に練習が必要です。怒ることより、赦しあおうとする心が何よりも必要ではないかと思えます。

神様は、皆様に、3,000億円を貸してくださっているのです。私たちは、3,000億円を返さなければなりません。しかし、帳消しにしてくださったのです。それなのにもかかわらず、1円や100円に命をかける愚かな姿を見せるのは、ありえないことです。

ありがとうございました。